

博物館と社会的包摂 大型公立博物館連合 2000

調査はレスター大学博物館学部博物館美術館研究センターによりおこなわれた

担当者はフーパーグリーン教授ら4人

目次、序文、はじめに

1章 博物館と美術館が社会的包摂に向きあう領域

2章 博物館と美術館の社会的影響

3章 優れた取り組みの原理

4章 博物館と美術館に固有の貢献

予備的な結論、補遺A方法論、補遺B評価

前書き

博物館と美術館は社会的排除と戦ってきたが、広く知られることがなかった。多くの人にとって博物館は研究とコレクションの殿堂であった。社会的包摂は資金を得ることも難しく、助成は保存や展示に使われた。歴史的に地域との協働は低く見られてきた。国立の博物館は社会的包摂の先導者ではなく、地域の博物館でもその役割は明確ではなかった。とはいえ、博物館が社会的包摂の推進者であることに異論はない。田舎でも都市でも同様であり、また大型公立博物館連合だけの機能でもない。博物館連合では博物館の機能を再定義し、社会的および教育的価値を強固にした。文化行政が機能し、コレクションが最大の価値であると明確にした。

この報告書は政府をはじめ多くの関係者に目を通してもらっている。一部はDCMS*社会的包摂の政策指針への回答である。報告書は多くの対策が始まっており政策指針が正しさを証明した。報告書が提起する問いは大きい。この重要な新政策への予算の確保とその継続の方法である。我々の提案は政府が社会的包摂の政策継続を文化行政に働きかけ、博物館にも補助金を出すことだ。そうすれば長期的な施策が実現する。対案はない。

GLLAM**はイギリス島の22の博物館機構が加盟し、機構全体で120の博物館と美術館を運営、年間1200万人の入館者がある。年間の関連予算は7000万ポンドである。

*DCMS : Department for Digital, Culture, Media and Sport、デジタル・文化・メディア・スポーツ省

**GLLAM : Group for Large Local Authority Museums、大型公立博物館連合と訳した

はじめに

1999年、GLLAMはレスター大学博物館学部博物館美術館研究センター（RCMG）に博物館と社会的包摂に関する調査を委託した。RCMGの返答は次のような内容であった。

- ・ GLLAM構成員の社会的包摂への関わりと活動のレベルを図示すること

- ・博物館と美術館の社会的影響を特定すること。この場合、社会的影響とは排除のレベルに至っている障害や不平等、差別との関係におけるものである。また社会的影響の事例について確認すること
- ・博物館として効果的な社会的包摂事業の原理を明らかにすること
- ・社会的包摂を目指す博物館と美術館のユニークな取り組みを特定すること
- ・博物館に従来用いられてきた評価の性質を考察すること、そして他の業界の評価方法の現状を描き、よりよい評価方法を示すこと

発見されたことは、おおくの場合、GLLAMの構成員にとってであるが、研究委員会で議論され、さらに詳しい調査が博物館や美術館で可能な限りおこなわれた。用語集は付録Aとした。

報告書の構成

1章 博物館と美術館が社会的包摂に向きあう領域

構成員の活動、そして彼らの社会的包摂の課題への取り組みを特徴づける論点を広範に描いた。この図式は博物館の社会的包摂への取り組みが外部に無視されたり、見過ごされたりする理由を特定することを考える

2章 博物館と美術館の社会的影響

排除に立ち向かう博物館の新施策の成果を詳しく見る。調査によると博物館は単独では排除につながる主要な指標（健康、犯罪、失業、教育）に立ち向かうことができない。ところが障害、不平等、差別では、広く独自の役割を果たすことが可能であるという。

3章 優れた取り組みの原理

優れた社会的包摂事業の取り組みの基礎となる原理を明らかにする。

4章 博物館と美術館に固有の貢献

博物館業界の包摂に向けたユニークな事業を取り上げる。

報告書は予備的な結論を作成し、恵まれた博物館と美術館が社会的包摂のための効果的な役割を果たすために求められる行程を指摘している。評価の役割を見直すこと、報告書が特定した鍵となる論点であり、調査そのものから特別な意味を持つと確認された事象については付録Bとした。

1章 博物館と美術館が社会的包摂に向きあう領域

社会的包摂の定義

GLLAM加盟の博物館と美術館は社会的包摂の施策を持っている。が、用語と関わり具合は様々だ。そこで各地の事例を紹介している。エジンバラ Edinburgh の対応班の名称は人生平等班として始まり積極行動班となり、次いで機会平等班、社会的排除班、そして現在の社会的包摂班となった。また社会的包摂に代わる用語として次のものが用いられている。community capacity building, community involvement, interdepartmental community learning strategies, cultural strategies, life-long learning, local regeneration。DCMSの社会的包摂の指針は次のようなものだ。社会的弱者や周縁化が危機的状況にある人たちの文化やレジャー活動の振興、とりわけ居住地域が問題となるケース、能力の欠如や貧困、年齢、人種や民族性など。Dundee、Tyne & Wearの事例

博物館美術館と地方公共団体 地方公共団体のなかには博物館が社会的包摂の取り組みを先導している例

がある。Southampton、Stoke-on-Trent、Nottingham、

博物館の関わり の段階 Glasgow、Manchester、Southampton、Tyne & Wear、Stoke-on-Trent、Hull、Edinburgh、Bristol、Wolverhampton、Coventry、

価値あるサービス サービス部分の総和より全体としてより価値がある、Stoke-on-Trent。

自己評価の増大 [博物館と職員の] ほとんどの博物館と美術館にとって取り組みの達成や討議での勝利、危機や不快、不明確を包摂する取り組みから得られることは刺激を感じる。Aberdeen、Nottingham、

相談 相談は社会的包摂の過程における核心部である。Bristol

協力関係 加盟団体に共通する感覚は協力関係こそ社会的に包摂する博物館に不可欠ということだ。

Nottingham、Bradford、Swansea、Dundee、Tyne & Wear、Glasgow

資金 資金方策の多様性は社会的な包摂の取り組みに関して現れる。また、構成員のすべてが資金が十分とは感じていない。事例なし

核となる変化 博物館は長きにわたり次の人たちの反映であった。白人、中間層、男性、帝国主義者、異性愛者、そして死者。現在の多様性を反映することは呼称や飾りの問題とされてこなかった。

Nottingham、Birmingham、Derby

結論

公立博物館の多くが地域との関係の構築や社会を変える主体になるという挑戦を始めている。

図1 行政機関の協力関係 [業種別の協力機関数、52業種159件、図というより表]

図2 行政機関の協力関係 [業種別の関係博物館数、34業種、ヒストグラム]

2章 博物館と美術館の社会的影響

はじめに博物館は教育をとおして社会を変える力がある、というDCMSの力強い提言を引用。

これまでの新政策と事業の影響 7つの主要な分野を書き出し、地域の事例を簡潔に紹介している。

個人や地域のレベルの影響

1) 個人の成長と能力開発

近所の見回り役—老人と回想する仕事 Plymouth

技能能力事業：視覚芸術開発政策、病院から地域に戻った人たちの心の病に影響する士気喪失と戦う

Glasgow

役割体験：人生を変える経験 障害者、不良や引きこもり者が博物館で仕事を体験し自己評価を高め変わっていく Wolverhampton、Coventry、Glasgow、Tyne & Wear、Hull

2) 地域の活力向上 博物館は地域に活力を与えられる。それは博物館が地域を刺激して自己認識の深め、自己決定力を高める。

キーハム事業：聞き取りへの参加から地方史の専門家へ Plymouth、

高位上昇事業 Sheffield、

乳牛女性班 Tyne & bWear。

役割体験 (1) マッキントッシュ事業 Glasgow、(2) 地域の受容力構築：展示準備訓練「我々のグラスゴー」 Glasgow。

3) 地域の包摂的な提示 排除との戦いで得た影響。博物館と美術館は地域の多様性を代表する能力がある。現実になれば固定的な見方を正し、寛容と社会的結束を促す。

奴隷制度との対決と歴史の再評価 Bristol、
抵抗：障害に立ち向かう技 Derby、
重要問題 Brighton Museum and Art Gallery、
インド50 Brighton Museum and Art Gallery, Brighton、
展望—再アフリカ事業 Leicester、
歴史を作る／熱望の対象 Tyne & Wear、
地域文化団 Southampton

4) 健全な地域の振興 この分野には協力事業や成果の事例がたくさんある。

Sexwise Nottingham
売春宿共同体 Wolverhampton
アジア女性織物事業 Birmingham
マグダ・セガール [女性の写真家] 展：妊娠前の生活が妊娠と子どもに与える影響 Southampton
旅行：健康事業の技 Stoke-on-Trent

5) 教育達成の向上と生涯学習の振興

正規の教育 [=学校] は伝統的に博物館と美術館になじみの分野である。しかしここでは優良な事例は扱わない。それよりも崖っぷちの事例を描いた。

私の場所と私—世代をつなぐ事業 Southampton
失敗した学校との協力関係 Nottingham, Aberdeen
リーズ [地名]：一世代バス事業 Leeds, Bradford
5歳未満児の楽しみに Tyne & Wear
「見る方法」と「感じる彫刻」展示 Wolverhampton

家族の読み書き「メモ」事業 Plymouth

6) 失業への取り組み 博物館は雇用に有益な結果をさまざまな方法でもたらすことが可能だ。

はね橋：アクセスの助言者 Nottingham

露出—若者の実録写真事業 Plymouth

代表的好例事業 [若い犯罪者とその親が対象] Birmingham

7) 犯罪への取り組み 犯罪への取り組みは博物館にとって最後の領域、しかし効果のある分野である。

破壊者から来館者へ Wolverhampton, Birmingham

スプレー缶美術教室 Tyne & Wear

若者の夢で Wolverhampton

3章 優れた取り組みの原理

包摂政策の枠組み、上層部、リスクを取ることに、ネットワークと協力関係、地域との協議や関係、能力向上、評価と説明責任、支持

4章 博物館と美術館に固有の貢献

博物館はコレクションなどの資源を用い相手先や事業参加者に次のことを提供できる。

彼らの物語を回復と独自の語り口、彼ら独自の知識を構築し用いること、創造的に独創的に働くこと、自信と自己認識を得ること、現状の反映と過去とのつながりを得て未来を想像して形作ること、個人的・社会的・文化的なよりどころを構築すること、文化の違いを学び認め合うこと

博物館と美術館は協働と協力関係に大きな貢献ができる。たとえば下のこと。

包摂的社会的将来図を示し説明すること、個人の成長と自己評価そして創造性を得る学習環境をつくること、安全で決めつけのない環境の提供：博物館は協働相手の社会福祉機関や刑務所そして病院に比べ問題や敗北者の場所とは思われていない、現在の問題から興味をまぎらし新しい視点で見直すことを助ける、文化的権威者と近づく機会の提供、協力関係を樹立する動機と開始の文化的触媒として働くこと

予備的な結論 [章レベル]

博物館で社会的包摂の仕事を定着するのは難しく、必ずしも認識されない。その理由は下のとおり。

- ・議論に用いる用語がさまざまなこと
- ・委員会や事業、施策の名称の広がり
- ・地方公共団体や博物館の政策での広い枠組みの欠如
- ・館長支持者の欠如。原因は博物館が持つ生涯学習や社会的包摂の可能性に対して、概念の枠組みや証拠、適切な言葉が無いことによる。

図1 博物館の影響力が見えないことによる悪循環 (次ページ)

前に進むために

悪循環を好循環に変えるため博物館に必要なのは

- ・日和見主義をもち続ける
- ・最大の努力とその継続
- ・もっと地域と向かい合う
- ・先導者かつ協力関係が後退するとき、人々に責任が取れるようにする
- ・仕事を文書に残し評価する
- ・成功の証拠を作っておく
- ・影響を見せ示す
- ・助成金を価値付けする
- ・博物館自身は触媒や資源と見なす
- ・地方公共団体の政策的支援を得て高く現実的な期待を定める

図2 博物館が触媒や手順のひとつとなる好循環 (次ページ)

Preliminary Conclusions

The research undertaken has identified a wealth of evidence to demonstrate the highly significant social impact of museums and galleries and their contributions towards social inclusion. It is clear from this report that museums and galleries have the potential to become powerful agents of social change.

However, social inclusion work in museums is difficult to pin down and it is not always recognised because of:

- diversity of language used to discuss it
- range of names for committees, projects and initiatives
- lack of a wider policy framework in the local authority and in the museum

- lack of evaluation
- lack of recognition by local authority and central government
- lack of advocacy on the part of directors because of the absence of a conceptual framework, evidence and appropriate terminology around the potential of museums as centres for life-long learning and social inclusion.

All of the above have contributed towards a fuzziness around the concept of social inclusion and of museums' contribution to this. This is illustrated in Figure 1; a vicious circle that explains why the sector's contribution has often been overlooked.

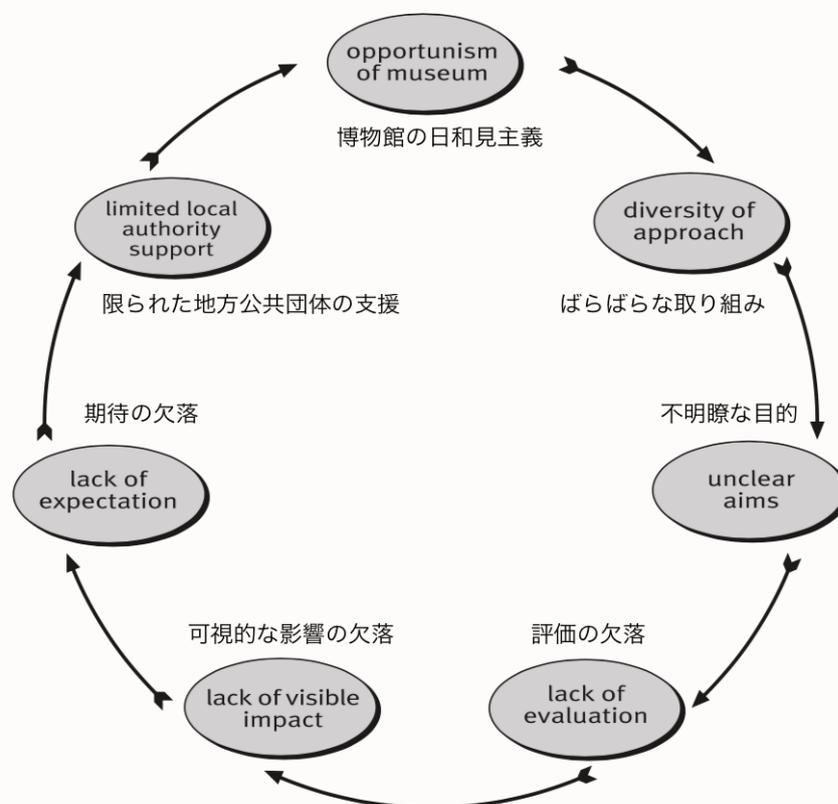


Figure 1: The vicious circle accounting for the invisibility of the museum's impact

図1 博物館の影響が見えないことによる悪循環

The way forward

This vicious circle can be converted to a virtuous circle.

Museums need to:-

- retain their opportunism
- maximise and sustain the efforts which result.
- be more reflexive towards communities
- be able both to take a lead and;

- to step back when the partnerships which result, enable people to take responsibility
- evaluate and document their work to;
- create evidence of success and;
- demonstrate the impact;
- and value for money of funding
- see themselves as catalysts and resources
- be supported by local authority policies and set high but realistic expectations

This process is summarised in Figure 2.

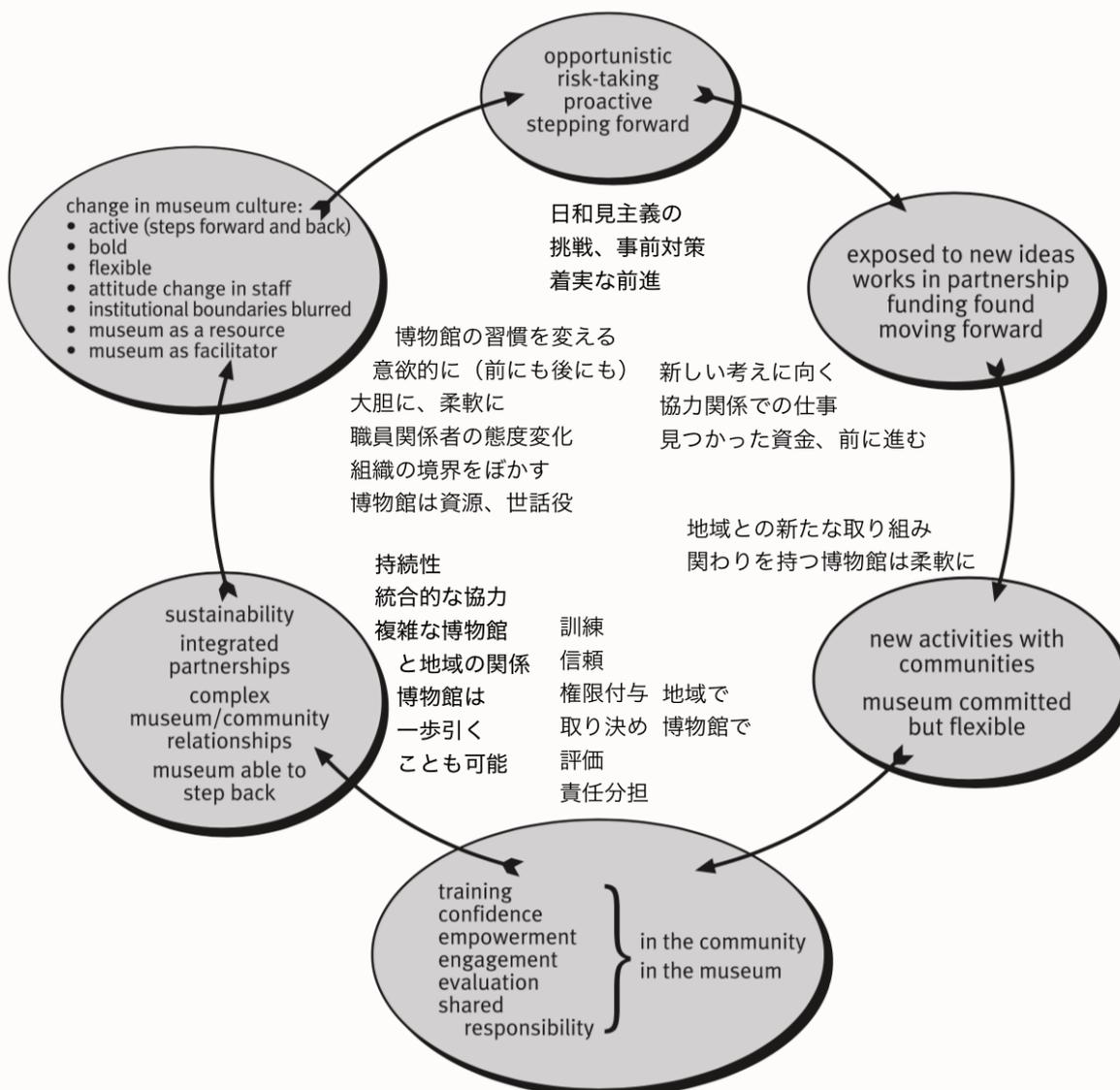


Figure 2: The virtuous circle – the museum as a process; the museum as a catalyst

図2 博物館が触媒や手順のひとつとなる好循環